

自 平成30年 4月 1日  
至 平成31年 3月31日

## 事業報告及び附属明細書

平成30年度

亀井南冥と亀井学



筑前五ヶ浦廻船



## 1 事業報告

平成30年度の事業実施結果について、当初計画に基づき以下のとおり報告致します。

### 1) 展示

(1) [計画] 「亀井学」の確立に向け努力を続けた亀井南冥が、晩年突如蟄居の藩命を受ける。現在に至るまで明らかになっていないその理由に関する諸説について展示解説する。

[結果] 亀井南冥が突如蟄居の藩命を受けた理由は諸説あるが、その遠因とされる「大宰府碑銘」及び「岡縣（おかのあがた）白嶋碑（しらしまのひ）」資料を展示し、同時に、市井の町医者であった南冥を儒医兼帯にまで引き上げた7代藩主黒田治之及び後ろ盾となっていた家老久野外記の相次ぐ他界も影響したことを解説する展示を行った。

(2) [計画] 継続して実施している展示内容解説の多言語化については、平成29年度に久留米大学文学部の多大な協力を得て館内展示解説の英文訳が完了したが、平成30年度はこれを利用したキャプションを効果的に配置して、外国人入館者の便宜を図る取り組みを一層推進する。

[結果] 展示キャプションの英語の設置を実施した。海外からの入館者の理解度については、今後のリサーチに基づく、更なる対応を検討する必要がある。

### 2) 企画

(1) [計画] 能古博物館が能古島に移転開設して30年目を迎える節目の年であるため、30年間の間に収集した能古島の人と風景の写真を展示する特別企画写真展「能古島 人：自然」を実施する。

[結果] 別館1階で「能古島 人・自然」写真展を開催した。30年目を迎える館が蓄えた写真を、人、花、海を中心に選び、展示した。島外の人には島の伝統行事や、海の仕事、人の表情など親しみをもって観て頂けたものと思われる。

### 3) 広報

- (1) [計画] 広報誌「のこ博物館だより」を年2回発行する(1回につき約3,000部)。  
また、能古博物館常設展示内容を掲載している冊子「博多湾物語」発行から10年目を迎えるため、当該冊子の改訂と追加を行い、内容の充実を図る。
- [結果] 広報用の小冊子「能古博物館案内」を発行することとし、「のこ博物館だより」の発行は1回(83号、3,500部)とした。より多面的な広報を行うことを企図した計画変更である。  
配布先は、個人・法人寄附者、自治体、能古島住民全世帯、市民向け広報センター、各メディア、公民館、美術館、博物館、その他記事関係者など。
- (2) [計画] 年間3回、各1000枚を目処にチラシを作成し、姪浜渡船場、能古島観光案内所、アイランドパーク等に備置する。
- [結果] 計画どおり、広報チラシを印刷・発行し、姪浜渡船場、能古渡船場観光案内所、アイランドパークに配布・備置した。内容は、博物館の概要案内、期間限定展示案内、通し開館や年末・冬季休館と開館日の案内等。
- (3) [計画] ホームページの更新・改善を図り、Web上の広報活動の充実を図る。
- [結果] ホームページを通じて企画展示内容等をタイムリーに伝えるなど、ホームページのメンテナンスを実施した。
- (4) [計画] 能古島内各施設、姪浜及び能古島渡船場内とその周辺および能古博物館広報掲示板にポスターを掲示して休館日等を周知し、博物館来館者の利便性を図る。
- [結果] 能古島内各施設、姪浜及び能古島渡船場内とその周辺および能古博物館広報掲示板にポスターを掲示して休館日や展示内容等を周知するように取り計らった。
- (5) [計画] アイランドパーク、観光案内所、他各施設の協力を発展させるために、日常の交流促進とともに館への見学会などを進める。
- [結果] 島内各施設の担当者と情報交換を行うなどして、人的関係の強化および連携充実を図った。

#### 4) 経営基盤の充実

[計画] 公益財団法人にふさわしい展示内容、経営基盤の充実に向けて、入館料、寄附金等の収入財源の確保を重点課題として活動する。

[結果] 平成 30 年度の入館者数は 1,504 人となり、前年度比 10.3%減となった。

能古島全体への来島者は、夏の海水浴客の増加で前年比プラスであるが、当館が連日開館している 5 月と 10 月の来島者数が天候不順等の関係で不振であった事に加え、集客面での当館の対応不足が主な原因であると考えられる。

博物館の認知度向上に向けて、展示内容や広報の充実、多言語対応への注力などがより一層進めていきたい。

損益概況は、経常収支が 2,352 千円と赤字決算であった。経常収支に減価償却費 6,116 千円を加算した資金収支は 3,764 千円であり、短期借入金の返済は完了した。

平成 29 年度の経常収支がプラス 2,176 千円であり、この黒字を翌年度以降の赤字で相殺（収支相償）することが公益認定ルールで求められているが、平成 30 年度に収支相償ルールは達成した。

## 2 会議開催状況

### 1) 評議員会

開催日 : 平成30年5月27日

内 容 : 平成29年度 計算書類及び付属明細 (承認事項)  
平成29年度 財産目録 (承認事項)  
平成29年度 事業報告及び付属明細 (報告事項)

開催日 : 平成31年3月20日

内 容 : 平成31年度 事業計画書及び収支予算書 (承認事項)  
平成31年度 資金調達及び設備投資の見込み (承認事項)

### 2) 理事会

開催日 : 平成30年5月12日

内 容 : 平成29年度 事業報告及び付属明細 (承認事項)  
平成29年度 計算書類及び付属明細 (承認事項)  
平成29年度 財産目録 (承認事項)  
平成29年度 監査報告 (報告事項)  
評議員会招集 (承認事項)  
理事長、常務理事による職務執行状況報告 (報告事項)

開催日 : 平成31年3月10日

内 容 : 平成31年度 事業計画書及び収支予算書 (承認事項)  
平成31年度 資金調達及び設備投資の見込み (承認事項)  
評議員会招集 (承認事項)  
理事長、常務理事による職務執行状況報告 (報告事項)

### 3 役員等の状況

平成31年3月31日現在

役名	氏名	担当職務
理事	原寛	理事長
理事	西牟田耕治	常務理事
理事	黒田康介	理事
監事	牧健太郎	監事
評議員	原祐一	評議員
評議員	塚本昭二	評議員
評議員	有吉通泰	評議員
評議員	江頭啓介	評議員

## 事業報告の附属明細書

事業報告書に記載の他、該当無し。